

DBS グループ・ホールディングス(DBS)

貸出増と純金利マージン拡大、経費率改善。世界的に効率性で優る国内上位行の中でも収益・費用バランス良好
シンガポール | 銀行 | 業績フォロー

フィリップ証券株式会社

BLOOMBERG DBS:SP | REUTERS DBSM.SI

- 2022/12期4Q(10-12月)は、総収益が前年同期比41.2%増、純利益が同68.5%増。貸出残高増と純金利マージン拡大、経費率改善が貢献。
- 2023年度通期会社計画も堅調見通し継続。不正会計疑惑を指摘されるインドのアダニ・グループ向け融資も貸倒れ懸念なしと表明。
- 純金利マージン・経費率・不良債権比率から見ても他の国内上位行より好バランス。シンガポール上位行は米銀より業績バランスが良好。

What is the news?

2/13発表の2022/12期4Q(10-12月)は、総収益が前年同期比41.2%増の45.90億SGD、総収益に対する営業費用の比率を示す経費率が同8.6ポイント低下改善の42.8%、貸倒引当金繰入額が前年同期の33百万SGDの戻りから42百万SGDの繰入れへ転落、純利益が同68.5%増の23.41億SGDだった。貸出残高増加と純金利マージン(NIM)拡大が増収に、経費率の大幅改善が増益に貢献した。前四半期比では、総収益が21.0%増、純利益が12.1%増、不良債権比率(NPL)が0.1ポイント低下の1.1%だった。

4Qの収益の主な内訳は以下の通り。①純金利収益は前年同期比73.8%増の34.05億SGD。純金利マージン(NIM)が同1.0ポイント上昇の2.61%と拡大に加え、12月末貸出残高が同1.3%増となったことが増収に寄与した。②純手数料・コミッション収益は同18.9%減の6.61億SGD。投資銀行業務とウェルスマネジメント業務で市況悪化に伴う取引減少が響いた。③その他の非金利収益は同12.7%増の3.20億SGD。④国債市場収益は同5.7%増の2.04億SGDだった。

How do we view this?

2023/12通期会社計画は、貸出残高伸び率が前期比1桁台半ばの伸び率、純手数料・コミッション収益が同2桁台の伸び率、純金利マージンが2.25%のピークに対して0.05-0.07ポイントのダウンサイドリスク、経費率が40%未満である。DBSは不正会計疑惑などを指摘されているインドの新興財閥アダニ・グループの企業向けの融資残高が総額で約13億SGDに上ると明らかにしたが、グループ内の融資先の業績はよく、与信も厳格に管理されているため貸倒れなどの懸念はないとの認識を示した。アダニ・グループの株式も保有していないとのこと。

シンガポール主要3行の内他2行は以下の通り。NIMはオーバーシー・チャイニーズ銀行(OCBC)が2.31%、ユナイテッド・オーバーシーズ銀行(UOB)が2.75%。経費率はOCBCが43.3%、UOBが42.6%。NPLはOCBCが1.2%、UOBが1.6%。NIMの高さおよび経費率とNPLの低さでDBSのバランスが良好とみられよう。また、米国首位JPモルガン・チェース(JPM)の22年4Q(10-12月)は、NIM(有利子資産純利回り)が2.47%、経費率が55%。シンガポール主要上位行は米銀との比較で見てもバランスが良好であり、金融システム不安に対して相対的に強い面がある。

業績推移

※参考レート 1SGD=98.93円

事業年度	2020/12	2021/12	2022/12	2023/12F	2024/12F
当期利益(百万SGD)	4,721	6,805	8,193	9,804	10,084
EPS(SGD)	1.86	2.66	3.18	3.82	3.94
PER(倍)	17.38	12.15	10.16	8.46	8.20
BPS(SGD)	21.42	22.41	22.12	23.59	25.36
PBR(倍)	1.51	1.44	1.46	1.37	1.27
配当(SGD)	0.87	1.20	1.50	1.81	1.90
配当利回り(%)	2.69	3.71	4.64	5.60	5.88

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

配当予想(SGD)	1.81	(予想はBloomberg)
終値(SGD)	32.32	2023/3/14

会社概要

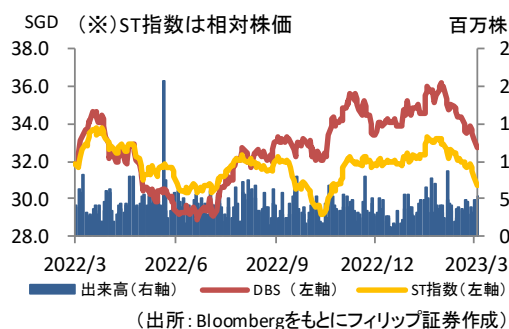
1968年にシンガポールの工業化推進と金融センターとしての発展に必要な開発資金の融資を行う目的のもと、「シンガポール開発銀行」として設立された世界的な金融サービスグループ。筆頭株主は政府系投資会社のテーマセク・ホールディングス。世界の19市場に進出している。アジアの中心的な商業銀行として、「中華圏」、「南アジア」、「東南アジア」の3つの軸となる地域を掲げ、貿易や投資の仲介に取り組んでいる。

また、デジタル技術の活用にも積極的に取り組んでおり、経済誌において「Euromoney」では「世界最高のデジタル銀行」に選ばれ、「The banker」でも「デジタルバンキングで最も革新的な銀行」にも選ばれたことがある。

シンガポール本国では、マス・マーケットを含めた全顧客セグメントに商業銀行業務・投資銀行業務・証券業務のほか、リース・ファクタリングなどユニバーサルバンク・サービスを提供する。それ以外の地域では、コーポレート・投資銀行業務、中小・零細企業向け与信業務、ウェルスマネジメント業務に注力している。

企業データ(2023/3/14)

ベータ値	1.08
時価総額(百万SGD)	83,372
企業価値=EV(百万SGD)	-
3ヵ月平均売買代金(百万SGD)	131.6



主要株主(2023/3)

1. テマセク・ホールディングス	29.51
2. CAPITAL GROUP COMPANIES INC	4.93
3. VANGUARD GROUP	2.29

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

リサーチ部

笹木 和弘
 kazuhiro.sasaki@phillip.co.jp
 +81 3 3666 6980

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>

・本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。